



馬込だより

第524号
令和5年1月10日発行
大田区立馬込小学校
校長 山本 秀一

<1月の行事予定表>

2023年の年頭にあたり

校長 山本秀一

新しい年が始まりました。

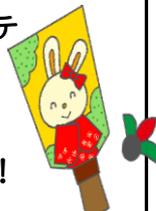
旧年中は保護者・地域の皆様に、大変お世話になりました。常に感染症への配慮を欠かすことができない状況ではあっても、おかげ様で様々な教育活動を一歩ずつ進め、多くの実りがありました。あらためて感謝申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

2023年。これまでもお知らせしていますが、いよいよ春頃から馬込小の校舎増築工事が始まる予定です。今後しばらくの間 学級数の増加が見込まれており、それに対応するためです。これまで音楽室と図工室があった2階建て校舎を取り壊し、そこに普通教室6室が入る3階建て校舎を新たに増築する計画です。工事期間中は校庭が狭くなり、生活のエリア・動線も変わります。何事もこれまでどおりとはいきません。安全を最優先に考え、かつ子供たちの生活や教育活動を充実したものとできるように、十分検討していかなければなりません。子供たちはもちろん、保護者や地域の皆様にもご不便をおかけしますが、どうぞご理解ください。

ところで今年の干支は、「癸卯(みずのとウ)」とのこと。調べてみると「癸」には、物事の終わり始まりという意味があるそうです。ひとつの節目なのですね。そういえば今年は、馬込小が開校145周年を迎える年でもあります。校舎の工事計画とあわせて、なんだか辻褄が合うような感じです。「癸卯」には、この「癸」の文字と、跳ね上がるという意味がある「卯」(うさぎ)との組み合わせで、「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年」という意味があるようです。ぜひそのような1年にしたいものです。

今日から3学期がスタートです。子供たちにとっては今の学年の学習・生活をしっかりと締めくくるとともに、次の学年へ、6年生は中学校という新たなステージへと飛躍するための大事な準備期間でもあります。さらなる成長に期待します。

まもなくの「展覧会」にも、皆様乞うご期待!



日	曜	行事予定
1	日	元日 
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	冬季休業日終
7	土	
8	日	
9	月	成人の日
10	火	特別時程 始業式 書き初め大会
11	水	給食始 計測(6年)
12	木	児童集会 計測(5年) 安全指導
13	金	計測(4年) 大田区書き初め展始 5時間授業(6年以外)
14	土	ものづくり教育学習フォーラム(六郷工科高等学校)
15	日	
16	月	放送朝会 計測(3年) 委員会 PUT 低 校内書き初め展保護者鑑賞日始
17	火	計測(2年)
18	水	計測(1年) PUT 高 校内書き初め展保護者鑑賞日終
19	木	展覧会始まるよ集会 大田区書き初め展終
20	金	縦割り班活動
21	土	
22	日	校庭開放
23	月	放送朝会 PUT 低
24	火	お話会(低)
25	水	PUT 高
26	木	展覧会 児童鑑賞日(低)
27	金	展覧会 児童鑑賞日(高)
28	土	特別時程 展覧会 給食あり 土曜英語教室 土曜理科教室
29	日	
30	月	振替休業日
31	火	

※1月の避難訓練は、事前予告なしで実施します。

1月生活目標「礼儀正しくしよう」

生活指導部 坪野 飛鳥

馬込小学校では、あいさつをすすんでできる児童が多く、とても素晴らしいと思います。また、ニコニコの笑顔であいさつをしてくれると、心の中が温かくなります。誰に対しても、相手の立場や気持ちを考えて、思い合っ、真心をもって接すると、お互いが気持ちよく過ごすことができます。相手のことを尊重して、大切に思う気持ちを態度で示した「礼儀正しい行動」がとれるよう、学校全体で取り組んでいきます。

書き初め大会



国語部 藤井 渉

冬休みが明けての1月10日(火)、校内書き初め大会を行いました。一人一人が新年の決意を込め、丁寧に力いっぱい書いて作品を仕上げました。

冬休みにも、各ご家庭で練習する機会がありました。特に3年生は初めての書き初めとなります。上手に書けるよう、頑張りました。

また、下記の予定で書き初め展を行いますので、ぜひご来校ください。

<校内書き初め展>

保護者鑑賞日：1月16日(月)～18日(水)
15:30～17:30

場所：各教室廊下

なお、各学年代表児童1名の作品は大田区小学校書き初め展に出品されます。

<大田区小学校書き初め展>

日時：1月13日(金)～19日(木)
9:00～17:00

※ただし最終日19日(木)は13:30まで
会場 大田区池上会館1階 展示ホール



展覧会のみどころ

図工部 菅光 右恭

図工の時間。ここで広がる表現には「正しい」とか「間違い」のような一元的な価値はありません。子供は、図工という教科の中で示されるあらゆるものを自らの身体と心で捉えながら、表したい・やってみたいと感じたことを試し、探りながらつくりだしています。人の生き様が、一様ではないように、図工の学びや答えは子供の数だけ存在します。

図工の授業をする日々の中で、ふと感じる事があります。それは、子供の作品が子供の目の前にある時、その子と作品のもつストーリーが交じり合い、一層輝いて見えるということです。我が子が、同年代の子供が…その手のひらで、指の先で、どうやってつくってきたのか…。展覧会では、子供の眼差しに立って、作品の裏の物語を想像しながら見ていただくと、一層味わい深いものとなるかと思います。今年度の展覧会保護者鑑賞では、お子様と一緒に来ていただくこともできます。作品を基に色々なことを語り合う機会にしてください。

家庭科部 塚田 絵美

5年生は初めてのミシンの学習で「ランチョンマット」を製作しました。1学期に学習した手縫いを生かした模様は、子供たちが計画を立て、一針一針丁寧に縫っています。ミシンで角を曲がる縫い方などは手順をふまえ、確認をしながら進めることができました。初めての学習に意欲的に取り組んだ5年生の気持ちと頑張りがつまったランチョンマットです。

6年生は「オリジナルトートバッグ」です。どんなバッグが作りたいか、そのためにはどんな大きさの布が必要かまで子供が考え、計画して材料も準備しました。出し入れ口や持ち手などの難しい部分は、ミシンの縫い方も工夫して取り組みました。また、バッグにはそれぞれのオリジナルの工夫がされています。どれ一つ同じものはない、世界でたった一つのバッグです。